

山梨県神社庁報

かみばね

第163号（平成25年10月20日）



平成二十五年年度

神社関係者大会次第

第一部 神宮大麻暦頒布始祭

（午後一時開始）

- 、諸員著席
- 、斎主以下祭員著席
- 、修祓（一同起立低頭）
- 、斎主一拝（諸員之に倣う）
- 、献饌（此の間奏楽）
- 、祝詞奏上（一同起立低頭）
- 、浦安の舞奉奏
- 、玉串奉奠
- 、撤饌（此の間奏楽）
- 、斎主一拝（諸員之に倣う）
- 、神宮大麻並曆授与
- 、斎主以下祭員退下
- 講話「式年遷宮について」
- 「遷御の儀」DVD鑑賞

第二部 神社関係者大会

次 第

- 、開式の辞
- 、神宮遙拝
- 、国歌斉唱
- 、敬神生活の綱領唱和
- 、物故者の霊に黙祷
- 、庁長式辞
- 、総代会長式辞
- 、神社庁並総代会庁務報告
- 、神社功績者表彰
- 、神社本庁規程表彰者伝達
- 、全国神社総代会表彰者伝達
- 、大麻頒布優良奉仕者表彰状伝達
- 、長寿の祝い記念品贈呈
- 、祝 辞
- 、神社本庁統理
- 、神宮大宮司 他
- 、被表彰者謝辞
- 、萬歳奉唱
- 、閉式の辞

第三部 清興

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかがけて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩
とに感謝し、明き清
きまことを以て祭祀
にいそしむこと

一、世のため人のために
奉仕し、神のみこと
もちとして世をつく
り固め成すこと

一、大御心をいただきて
むつび和らぎ、国の
隆昌と世界の共存共
栄とを祈ること



式

辞

庁長 根 津 泰 昇

本年は、例年六月に開催されておりました総代会大会と一本化し本日茲に神職、総代を始め県下の氏子、崇敬者各位にご参列いただき、平成二十五年山梨県神社関係者大会を開催いたしました。また、神社本庁統理殿、神宮大宮司殿を始め多数の御来賓のご臨席を頂き篤く感謝申し上げます。

ご参集頂きました関係者各位には、斯界の為に尽力賜り感謝申し上げます。又神宮式年遷宮の奉賛活動にはご理解、ご協力賜り、神宮当局よりお示し下さった目標額を上回る実績が成し遂げられたのは関係各位のお力添えと衷心より御礼申し上げます。本年の役員改選に当たり、浅学非才の私ではございますが、四月より庁長の重責を担うことになりました。諸先輩が築かれてまいりました斯界の為に、一意専心の心で奉仕する覚悟でございますので何卒お力添え賜りたくお願い申し上げます。皇室のことにつきましては、天機いよいよ麗しく国民の末々に至るまで、御心をつかわさら

れておられますことは洵に畏い極みでございます。本年も再三に渡り東日本大震災の被災地をお見舞いになり、被災者をお慰めし、関係者をねぎらわれました。私達はこの大御心に応え、皇室の弥栄をお祈り申し上げます。又神社興隆と斯界の発展に決意を新たにいたすところでございます。

神宮にありましては、極めて重い重儀であります遷御の儀が十月二日内宮、五日外宮におかれまして浄暗の中厳肅に斎行されました。本宗と仰ぐ神宮が、新たな息吹の蘇りとして、その姿を現したのであります。「心のよりどころ」としてご神威高揚されたことは、御同慶の至りと存じます。

又大麻頒布始祭も斎行され、全国神社庁に授けられました。山梨県に於いても頒布始祭が先程挙行され各支部に頒たれました。本年は式年遷宮の慶事の御年でもありますので、各神社におきましても増体運動に一段のご努力を懇情申し上げます。山梨県にありましては、富士

山が世界文化遺産に登録されました。富士山を始め登録された諸施設は、信仰の源泉であり、芸術の源であることがその理由とされております。信仰の源が山梨から世界に発信できることは、喜ばしいことであります。

我が神の国日本にありましては、式年遷宮の佳節の年にオリピックの開催も決定いたしました。これからは多くの外国人が訪れますので、この機に神社関係者が一丸となり「日本人の心」を啓発したいものです。

日本人の心は清らかで美しく、親切で心豊かで他人にも自分のことのように一生懸命になれる心、おおかたで真面目で希望に満ちて明るかった日本人の心。こんな日本人の心に戻るために道徳教育、教育勸語の精神を広めることが大切だと存じます。日本人の心を取りもどすには神道精神を神社の杜から発信する事が一番だと確信しております。国旗掲揚推進運動もその一環であります。日本人の心を取り戻すためにお力添え賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが本日表彰の栄に浴された方々は常日頃神明奉仕に携われたことが認められたこととでございます。衷心よりお祝い申し上げますと共に今後のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げます。



式 辞

山梨県神社総代会

会長 中 込 豊 秋

山なみの紅葉も日毎にその色を増す今日この頃、こゝに平成二十五年度山梨県神社関係者大会が開催されるにあたり、公務ご多用のなか、横内山梨県知事、宮島甲府市長、上原甲府商工会議所会頭はじめ国会議員、県議会議員の先生方ならび関係団体代表、県下神社関係者の多数のご参加を得て盛会裡に開催できまことは、この上ない喜びでござります。

本年は第六十二回神宮式年遷宮の儀が催され、日本人として歴史、伝統、思想、文化を見つめる機会でもあります。我々は先人が遺し伝へた鎮守の杜、神社を中心とした文化、伝統、地域の絆の謚を次代に継承することの役目を確認するためにも意義あるものであります。なほ遷宮この事業に際しては多くの関係者より多額なご奉賛を賜り、役割を果たすことが出来ました。有難うござりました。さて本年は政権もかわり世のなか大きく変化をしようとしております。そのなかの一つに教育問題があります。国家観なき戦後教育、六十年という空白

があり近年少々見直されておりますが、大切なのは正しい歴史観の確立であり、教育は国民性を創る基礎であると思ます。合せて家庭教育、まずは躾こそその人の生涯を左右する品格にもなろうと思はれる。昔から親を見れば子が判り、子を見れば親が判るとお年寄りの言い伝えがありました。皆さん一昨年の三月十一日の東北震災の折の日本人の行動には多くの外国人は驚いた。海外より数多くマスコミ関係者が現地を訪れ、発信し新らためて日本人の本当の姿を観られたと思います。我が国二千六百有余年の良き伝統。地域社会の一体感、自然を守り、神を敬い、先祖と両親に感謝し、週回への思いやり心。私は思うこれ総て日頃の生活のなから培われるものであらう考えます。

さて、話は少々かわります。平和ボケして居る日本人、と蔑すまされて居る日本人、の学者ばかりではありません。もれ聞いた話ですがロッテのステイブン監督が帰国の際日本を去る空港の記者会見で、日本人は素晴らしく、住み良い、国だ

が、この日本には国を守る人は誰もいないと語り去ったそうです。その場に居た記者の誰一人言葉を発する者が居なかったそうです。

今年の運動方針の一に、国旗掲揚を推めようと決めました。先ずは日の丸はいつ頃からあるのか平安時代末期の源平の合戦のころから扇や旗のデザインとして登場し、時代が進み他国との貿易の際、朱印船などの「般印」として使われ、この頃から今日の船籍を示す「国旗」としての役割を果たしはじめたと考えられます。「日の丸」が般印、国標として定められるは幕末ペリーの黒船が来航した直後の安政年間、これを維新政府も引き継ぎ、明治三年一月二十七日「日の丸」を国旗として布告した。わが国ではそれまで慣習法であつたものを平成十一年に「国旗及び国歌に関する法律」として国旗は日章旗、国歌は君が代と明文規されました。私たちは先ず神職、総代、神社は掲揚することと決めて、各地域の幼稚園、学校、企業に展開する。合せて諸団体の機関誌に掲載を依頼する。願うは国政、県政志す先生方にも力強く第一歩を踏みだしていただきたい。最後にありますが、来年の大会には皆さん共にこの国旗の掲揚数が多くなったことを喜びあい度いと願ひ、挨拶とします。

祭 典 日 程

1111 甲府市愛宕神社例祭
3 1 大嶽山那賀都神社紅葉新祭

11 弓削神社例大祭 市川大門町
10 一宮浅間神社例祭 富士川町

1111 青柳諏訪神社例大祭 北杜市
2215 高根町舟形神社秋例祭（新嘗祭）

1111 甲府市下帯那諏訪神社新穀感謝祭
10 甲府市高畑住吉神社例大祭

1111 南アルプス市高尾穂見神社例大祭・新穀感謝祭（一三二日）

1111 玉諸神社新嘗祭 酒折宮新嘗祭
312823 甲府市勝沼古宮太神秋祭

1111 季例大祭 明野町上手宇波刀神社新嘗祭 韮崎市穴山町諏訪神社新嘗祭 北杜市高根町熱那神社新嘗祭 都留市上町神新嘗祭 富士吉田市上

1111 暮地神新嘗祭 富士吉田市上町神新嘗祭 富士吉田市上町神新嘗祭 富士吉田市上町神新嘗祭

1111 大倉富士浅間神社新嘗祭
312823 大倉富士浅間神社新嘗祭 大倉富士浅間神社新嘗祭

1111 八代町北熊野神社歳旦祭、鰯
312823 沢八幡神社元旦祭、高根町長沢形神社歳旦祭、韮崎市穴山町諏訪神社新年祭、船津八王子神社歳旦祭・厄祓祭、船津口神社歳旦祭・厄祓祭、一宮中尾神社中尾道祖神祭（一三二日）

1111 長坂町穂見諏訪十五所神社筒粥神事（一五一日）
1715 都留市石船神社初祭
14 新屋山神社正月例祭

庁 務 報 告

事 業

- 1、神宮式年遷宮奉賛
- 2、神宮大麻奉斎推進
- 3、神殿三大祭斎行
- 4、神宮新穀感謝祭奉賛
- 5、靖国神社公式参拝実現運動実施
- 6、北方領土返還運動継続
- 7、各種研修
- イ、現任神職研修会
- ロ、総代研修会
- ハ、雅楽研修会
- ニ、関東地区中堅神職研修会
- ホ、女子神職研修会
- ヘ、浦安の舞研修会
- ト、初任神職研修会
- 8、一都七県神社庁連合会諸会議
- 9、国旗掲揚運動推進
- 10、金品寄付者顕彰
- 11、神政連活動に協力
- 12、神社奉護運動推進
- 13、日本会議活動に協力
- 14、郷土暦編集配布
- 15、庁報「ひがね」年四回発行

神社本庁統理の承認を申請した神社

- 甲府
元宮住吉神社 枯損木伐採
稲積神社 主要建物新築
甲斐奈神社 境内地模様替

東山梨

大石神社 財産処分
白鬚神社 財産処分

峡中

八幡神社 枯損木伐採
天神社 枯損木伐採

峡北

諏訪神社 枯損木伐採
八幡神社 財産処分
柳原神社 境内地模様替
松原諏訪神社 主要建物模様替
南都留
北口本宮富士浅間神社 規則変更
北口本宮富士浅間神社 財産処分
貴船神社 主要建物改築
北都留
福地八幡神社 枯損木伐採

神社本庁規程表彰

諏訪神社宮司 齋藤 實
逸見神社宮司 森越 義建
木宮神社役員 堀内 邦満
神社庁規程表彰
酒折宮宮司 飯田 直樹
表門神社宮司 市川 行治
穂見神社宮司 貝瀬 精明
小室浅間神社宮司宮下 莊一

北口本宮富士浅間神社権欄宜

小佐野文男

神宮大麻頒布優良者表彰

甲府支部

優秀支部

特別表彰頒布優良奉仕者

穴切大神社宮司 秋山 忠也

頒布優良奉仕者(神職)

稲積神社宮司 根津 泰昇

愛宕神社宮司 小山 利行

御崎神社宮司 上條 晃

甲斐奈神社宮司 高原 玄承

浅間神社権欄宜 植松 真芳

神明神社宮司 志村 幹人

頒布優良奉仕者(総代)

弓削神社総代 有泉 一征

長塚神社総代 渡辺 秀一

全国神社総代会規程表彰

玉諸神社役員 中込 豊秋

北口本宮富士浅間神社役員 佐々木三郎

山梨県神社総代会規程表彰

玉諸神社責任役員 米山米太郎

元宮住吉神社常任総代 加賀美 仁

元宮住吉神社副会長 秋山 憲彦

古八幡神社責任役員 高山 巖

金山神社総代 石水 勤吾

天神社総代 日本 勝也

八幡神社総代 宮澤 靖

一實神社総代 鶴田 逸男

文珠神社総代 依田 兵三

三社諏訪神社総代 古屋 民夫

三社諏訪神社総代 江原 辰男

恵比寿神社世話人 雨宮 輝彦

恵比寿神社世話人

佐久間 啓

八幡神社奉賛会会長 長田 辰男

鈴屋諏訪神社総代会長 藤村 千歳

稲積神社崇敬青年会 五味 隆彦

稲積神社崇敬青年会 志村 礼二

稲積神社いなほ会計 滝沢 参三

三島神社総代会会長 橘田 久志

八幡社責任役員 東福寺正一

浅間神社総代 小池 喜平

浅間神社副総代 高取 国勝

浅間神社責任総代 深澤 仁

浅間神社総代 茗ヶ原一正

浅間神社総代 宮川 照雄

浅間神社総代 茅野 昭男

神明神社総代 小野 勇

神明神社総代 内藤 周夫

神明神社総代 相良 治彦

熊野神社総代 数野征四郎

熊野神社総代 古屋 光徳

五社神社総代 峰岸 悦郎

五社神社総代 岡部 仁

伊勢社責任総代 市村 龜造

神部神社前総代長 須玉 幸蔵

中尾神社責任役員 大久保 洸

八幡神社総代 古屋 昭一

八幡神社総代 滝田 文明

八幡神社総代 三井 康

八幡神社総代 齋藤弘一郎

諏訪神社崇敬者 上田 公任

諏訪神社崇敬者 藤川 恒幸

若一王子社崇敬者 吉岡 幸男

犬鳴神社責任役員 落合 照雄

諏訪春日神社責任役員 佐藤 安孝

諏訪神社責任役員 畑野 耕三

【新任神職】

山縣神社欄宜 塚川 宣和

八幡神社欄宜 佐々木高比古

【昇任神職】

天神社宮司 渡邊 英明

浅間神社宮司 安田 洋人

山梨縣護國神社欄宜

天神社欄宜 羽中田康司

富士山小御獄神社欄宜 吉川 薫

【本務替神職】

巨摩八幡宮宮司 齋藤 雄

浅間神社宮司 安田 洋人

富士山小御獄神社欄宜 小佐野正崇

琴平神社宮司 小佐野正崇

市杵島神社宮司 渡邊平一郎

大神社権欄宜 加越紀念男

【帰幽神職】

巨摩八幡宮宮司 齋藤 脩

若宮八幡宮名譽宮司

天津司神社宮司 藤原 茂男

天神社宮司 菅沼 公

諏訪大神社宮司 渡邊 明

弓削神社宮司 依田 長典

【退職神職】

武田神社権欄宜 青嶋 貞昭

志村 修司

【免職神職】

小室浅間神社宮司 佐藤 勉

庁 務 日 誌 抄

祭 儀 関 係

平成二十四年

〃二二

神殿例祭参列

八・一七

たま祭参列
お白石持行事参加
旅行(第二団)

〃一九

者会(湯四川温泉
山梨県神社関係者
大会(山梨県民文
化ホール)

一・一八

役員納会
庁報委員会

一〇・一

神殿月次祭参列
山梨縣護國神社例
祭献幣使参向

二・一

神殿月次祭参列
神殿祈年祭参列
山梨縣護國神社紀
元祭参列

八・二九

お白石持行事参加
旅行(武田)

一・一八

全国教化会議(本
庁)

一・一一

甲府支部初会(稻
積神社、南都留
支部初会(おおよ
中小企業団体新春
交流会(アビオ甲
府)

一〇・二二

神宮大麻曆頒布始
祭参列

二・一一

神殿月次祭参列
神宮大麻曆頒布修了
祭参列

九・一六

神宮大麻曆頒布始
祭参列

一・一二

庁報委員会
役員会

一・一六

役員会、役員初会
東八代支部初会
神宮初まいり

一〇・二七

東八代支部神宮大
麻曆頒布始祭参列

三・一

神宮大麻曆頒布修了
祭参列

九・八

牛倉神社例祭献幣
使参向

一・二六

群馬・奥澤庁長特
級を祝う会(水上
温泉)

一・二四

神職合同初会
不活動法人対策会
議

一〇・二八

東山梨支部神宮大
麻曆頒布始祭参列

四・一

神殿月次祭参列
山梨縣護國神社例
祭参列

九・一九

小室浅間神社流鏑
馬祭参列

一・二八

神政連臨時代議員
会・選挙対策研修
会

一・二八

不活動法人対策会
議

一〇・三〇

甲府支部神宮大
麻曆頒布始祭参列

四・一二

武田神社例祭献幣
使参向

九・二三

山縣神社例祭献幣
使参向

一・二八

神政連臨時代議員
会・選挙対策研修
会

一・二八

議

一〇・三〇

峡中支部神宮大
麻曆頒布始祭参列

四・一二

役員就任奉告祭
河口浅間神社例祭
献幣使参向

九・二八

峡南支部神宮大
麻曆頒布始祭参列

一・二九

日本会議県本部役
員会

一・二八

不活動法人対策会
議(東京)

一〇・三〇

南都留支部支部神
宮大麻曆頒布始祭
参列

四・二五

稲積神社例祭参列
北口本宮富士浅間
神社例祭献幣使参
向

一〇・二

皇大神宮遷御の儀
奉拝

一・二二

衆議院議員総選挙
候補者事務所回り
功労賞表彰

一・二六

神政連県本部役員
会、教化委員会
北方領土返還要求
街頭キャンペーン
(甲府駅頭)

一〇・三〇

北都留支部支部神
宮大麻曆頒布始祭
参列

五・一

神殿月次祭参列
稲積神社例祭参列
北口本宮富士浅間
神社例祭献幣使参
向

一〇・五

豊受大神宮遷御の
儀奉拝

一・三

功労賞表彰

二・七

神政連県本部役員
会、教化委員会
北方領土返還要求
街頭キャンペーン
(甲府駅頭)

一一・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

五・一〇

出雲大社遷座参
列

平成二十四年

神政連県本部役員
会

二・七

峡北支部神職総代
年末合同会議

二・七

運動全国大会(九
段会館)

一一・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

六・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

一〇・六

天皇皇后両陛下ご
来県に際し御奉迎
御奉送

二・一〇

神政連県本部役員
会

二・八

役員会、教化講演
会

一一・一四

神宮新穀感謝祭参
拜参列

七・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

一〇・一〇

神政連県本部役員
会

二・一四

役員会、身分選考
委員会

二・二二

一都七県神社庁連
合会総会(鬼怒川
温泉あさや)

一一・一九

神宮新穀感謝祭参
拜参列

八・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

一〇・一〇

神政連県本部役員
会

二・一四

役員会、身分選考
委員会

二・二二

一都七県神社庁連
合会総会(鬼怒川
温泉あさや)

一二・一

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

八・九

神殿月次祭参列
神殿月次祭参列

一〇・一〇

神政連県本部役員
会

二・一四

役員会、身分選考
委員会

二・二二

一都七県神社庁連
合会総会(鬼怒川
温泉あさや)

平成二五年

神殿歳旦祭参列
神宮初まいり

八・一五

山梨縣護國神社
初まいり

一・二〇

神殿歳旦祭参列
神宮初まいり

八・一五

山梨縣護國神社
初まいり

一〇・一八

一都七県教化担当
役員会

二・一六

議員総選挙

二・二四

東山梨・東八代支
部

二・二七	部研修会 甲府支部総会（ベ ルクラシック甲 府）	三・二九	会（川治温泉宿屋 伝七）	五・二七	（二五） 他諸会議	七・四	森屋宏出陣式（甲 府・都留）	八・一九	神政連県本部役員 会、日本会議県本 部三役会
三・五	神宮大麻頒布春季 推進会議、遷宮奉 賛会事務担当者会 議（神宮）	四・一	神社庁長事務引継 ぎ報告委員会	五・二八	南部留・北都留支 部研修会	七・一〇	教化委員会宿泊研 修会	八・二二	神政連代議員会、 総代会評議員会、 日本会議県本部総 会、キャラバン隊 来県、国旗掲揚推 進委員会
三・六	神政連時局対策連 絡会議	四・九	神政連県本部役員 会、庁報委員会	五・三二	代議員会、護國神 社参拝、人事委員 会、役員会	七・一七	緑陰子供会打ち合 わせ	八・三一	東山梨支部総会 （山梨市民会館）
三・六	庁報委員会	四・一〇	辞令交付式（本庁）	六・二	県南支部総代会	七・一八	神社庁監査、遷宮 記念事業委員会、 不活動対策研修会	九・六	神宮大麻頒布推進 会議（神宮）
三・一一	甲府支部研修会	四・一一	庁報委員会	六・三	北方領土返還山梨 県民会議（ヘルク ラシック甲府）	七・二二	第二十三回参議院 議員通常選挙	九・七	神社庁長会、「皇 室」普及委員会、 神宮崇敬会事務局 長会議
三・一三	神政連一都七県本 部長・幹事長・事 務局長会（箱根富 士屋ホテル）	四・一七	遷宮広報研修会 （神宮会館）	六・三	庁報委員会	七・二二	中堅神職研修開催 式（明治神宮）	九・一〇	全国神社総代会大 会（愛媛県）
三・一四	支那・支中・支北 支部研修会	四・一八	番町政策研究所躍 進の集い（東京ア リンスホテル）	六・五	神宮参与・評議委 員会	七・二三	甲府支部合同総会	九・一八	神政連県本部役員 会、庁報委員会
三・一八	遷宮奉賛会評議員 会、神社庁長懇話 会（明治記念館）	四・一九	本庁評議員一都七 県の会 明治記念 館	六・一一	神政連本部長事務 局長連絡会（本庁）	七・二四	北都留支部総代会 定期総会（大月市 民会館）	九・二〇	国旗掲揚推進委員 会
三・一九	拝謁の儀、神社庁 長会、「皇室」普 及委員会	四・二二	役員会、歓送迎会 （古名屋ホテル）	六・一二	神政連中央委員会 （本庁）、ありむら 治子決起大会	七・二六	峡北支部通常総会 （魚光会館）	九・二四	庁規則・内規検討 委員会、表彰委員 会、人事委員会、 役員会
三・二一	伊勢神宮「式年遷 宮」パネル展（岡 島百貨店）	四・二六	神政連主催靖國神 社参拝大社社展拝 観研修	六・一三	神社庁事務担当者 会（本庁）	七・二七	緑陰子供会（穴切 大神社）	九・二五	衣紋研修会
三・二二	役員会、臨時協議 員会、臨時代議員 会、臨時評議員会	五・一三	清和政策研究会 峡北支部総代会通 常総会	六・一四	身分選考委員会、 表彰委員会、役員 会	七・二八	雅楽研修会（ニユ ー美登）		
三・二七	伊勢神宮崇敬会理 事会（神宮会館）、 三役会	五・一七	日本会議関東ブロ ック会議、教化三 役会	六・二〇	予算委員会	八・二	初任者神職研修会 （二期）		
三・二八	一都七県神社庁事 務担当者職員研修	五・一八	東八代支部会	六・二六	豊栄の舞講習会	八・三	初任者神職研修会 （二期）		
三・二九		五・二〇	神社本庁評議員会	六・二七	教化委員会	八・七	役員会、定例協議 員会		
				六・二八	神政連県本部役員 会	八・八	総代会監査、神政 連監査		
				七・一	皇太子殿下御奉迎 （富士吉田市）	八・一六	閉幕大会		



山梨県神社庁経常費歳入歳出決算				自	平成24年7月1日	至	平成25年6月30日
山梨県神社庁経常費歳入歳出予算				自	平成25年7月1日	至	平成26年6月30日
歳 入 の 部							
款項	科 目	24年度決算額	本年度予算額				
神社本庁幣帛料		387,400	380,000	光 熱 水 費	880,096	1,000,000	
負 担 金		22,684,300	22,619,300	通 信 運 搬 費	490,777	820,000	
本 庁 協 賛 金		600,000	600,000	賄 費	40,086	50,000	
神 社 負 担 金		11,366,300	11,366,300	旅 費	1,156,531	2,000,000	
神 職 負 担 金		8,388,000	8,323,000	交 際 費	879,717	1,100,000	
特別神社寄贈金		1,930,000	1,930,000	慶 弔 費	108,500	200,000	
神宮奉賛活動推進費		400,000	400,000	雑 費	60,305	120,000	
交 付 金		49,069,830	48,600,000	車両維持管理費	0	1,100,000	
神宮神徳宣揚費		47,800,000	47,600,000	事 業 費	7,942,973	9,380,000	
神社本庁交付金		1,269,830	1,000,000	教 化 関 係 費	1,534,244	900,000	
財 産 収 入		62,980	17,000	教 化 委 員 会 費	1,767,283	2,600,000	
神 殿 奉 納 金		55,000	10,000	神社振興奨励費	200,000	200,000	
財 産 利 子		2,870	3,000	地 方 研 修 所 費	201,500	1,000,000	
預 金 利 子		5,110	4,000	講 習 会 助 成 費	0	50,000	
諸 収 入		4,793,181	4,161,600	庁 報 発 行 費	1,000,650	1,100,000	
郷土暦頒布費		1,936,500	1,800,000	郷土暦調整費	970,200	1,000,000	
手数料並授与料		913,200	800,000	神宮奉賛活動推進費	400,000	400,000	
雑 収 入		793,481	461,600	指定団体補助金	1,220,000	1,220,000	
特別納付金		1,150,000	1,100,000	神社本庁協賛金	450,000	450,000	
当初運営金		6,000,000	6,000,000	表 彰 費	29,013	150,000	
繰 越 金		16,209,818	19,992,100	神 社 調 査 費	97,083	200,000	
歳 入 合 計		99,207,509	101,770,000	諸 祭 寄 贈 金	73,000	100,000	
歳 出 の 部				雑 費	0	10,000	
款項	科 目	24年度決算額	本年度予算額	神社本庁負担金	4,332,900	4,400,000	
幣 帛 料		411,600	450,000	大 麻 暦 頒 布 費	917,875	951,000	
神宮神徳宣揚費		30,907,552	31,130,000	頒 布 始 祭 費	80,000	80,000	
本庁特別納付金		9,577,552	10,000,000	郷土暦頒布交付金	580,950	600,000	
支 部 交 付 金		21,330,000	21,130,000	荷 造 発 送 費	35,925	50,000	
会 議 費		3,262,064	4,120,000	雑 費	221,000	221,000	
役 員 会 費		1,552,924	1,700,000	派 遣 費	991,964	1,210,000	
委 員 会 費		174,465	220,000	評 議 員 派 遣 費	225,540	300,000	
関係者大会費		1,098,021	1,500,000	一都七県連合会派遣費	616,414	700,000	
参 与 会 費		436,654	700,000	神宮奉仕員派遣費	10,000	10,000	
給料及諸給与		13,464,797	17,273,020	事務担当者派遣費	140,010	200,000	
給 給 手 当		6,902,400	7,116,000	会 館 運 営 費	665,823	1,170,000	
諸 給 与		1,808,520	1,928,520	神 殿 費	115,452	200,000	
賞 与		2,564,184	2,668,500	借 地 費	200,000	200,000	
備 人 料		511,700	3,360,000	営 繕 費	0	300,000	
社会保険・厚生年金		1,628,373	2,100,000	管 理 費	250,371	300,000	
福 利 厚 生 費		49,620	100,000	諸 費	100,000	170,000	
庁 費		4,797,861	8,340,000	資 金 財 産 造 成 費	4,020,000	4,020,000	
備 品 費		815,640	900,000	基 本 財 産 造 成 費	10,000	10,000	
文 房 具 費		18,622	50,000	予 備 資 金 積 立 金	10,000	10,000	
図 書 印 刷 費		40,474	600,000	職 員 退 職 金 積 立 金	3,000,000	3,000,000	
消 耗 品 費		307,113	400,000	会 館 維 持 資 金 積 立 金	1,000,000	1,000,000	
				分 担 金	700,000	500,000	
				運 営 資 金 積 立 金	800,000	800,000	
				次年度当初運営金	6,000,000	6,000,000	
				予 備 費	0	12,025,980	
				歳 出 合 計	79,215,409	101,770,000	

山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出決算 山梨県神社庁総代会経常費歳入歳出予算				自 平成24年 7 月 1 日 至 平成25年 6 月 30日	自 平成25年 7 月 1 日 至 平成26年 6 月 30日	
歳 入 の 部				消 耗 品 費	4,725	10,000
款 項	科 目	24 年度決算額	本年度予算額	旅 費	108,270	300,000
諸 収 入		3,066,347	3,015,508	手 当	120,000	120,000
	負 担 金	1,554,600	1,554,600	慶 弔 費	5,000	50,000
	協 賛 金	1,444,000	1,444,000	役 員 会 費	22,030	100,000
	寄 付 金	0	5,000	雑 費	11,050	50,000
	雑 収 入	67,747	11,908	全国神社総代会代議員派遣費	88,660	120,000
前 年 度 繰 越 金		885,874	2,684,492	負 担 金	171,600	172,000
	歳 入 合 計	3,952,221	5,700,000	事 業 費	619,450	2,700,000
歳 出 の 部				神 社 振 興 対 策 費	0	300,000
款 項	科 目	24 年度決算額	本年度予算額	講 演 会 費	0	300,000
諸 支 出		376,679	800,000	功 績 者 表 彰 費	19,026	100,000
	備 品 費	0	5,000	研 修 費	300,424	700,000
	文 房 具 費	3,577	10,000	全 国 総 代 会 積 立 金	300,000	300,000
	図 書 印 刷 費	0	5,000	総 会 費	0	1,000,000
	通 信 運 搬 費	13,367	30,000	予 備 資 金 積 立 金	100,000	100,000
				予 備 費	0	1,928,000
				歳 出 合 計	1,267,729	5,700,000

神政連山梨県本部歳入歳出決算 自 平成24年 7 月 1 日 至 平成25年 6 月 30日 神政連山梨県本部歳入歳出予算 自 平成25年 7 月 1 日 至 平成26年 6 月 30日				歳 出 の 部			
歳 入 の 部				款 項	科 目	24 年度決算額	本年度予算額
款 項	科 目	24 年度決算額	本年度予算額	経 常 費		249,965	260,000
会 費		1,852,000	1,920,000	人 件 費		150,000	150,000
特 別 協 賛 金		321,000	359,000	備 品 消 耗 費		34,336	30,000
法 人 寄 付		1,164,000	1,100,000	事 務 所 費		65,629	80,000
個 人 寄 付		736,000	420,000	政 治 活 動 費		3,804,328	3,810,000
雑 収 入		77	728	組 織 活 動 費		1,255,681	1,010,000
前 年 度 繰 越 金		291,488	310,272	調 査 研 究 費		141,930	200,000
歳 入 合 計		4,364,565	4,110,000	寄 付 金 交 付 金		1,935,000	1,900,000
				研 修 費		346,500	400,000
				都 七 県 積 立 金		0	150,000
				一 都 七 県 議 会 費		92,429	100,000
				予 備 費		32,788	50,000
				予 備 費		0	40,000
				歳 出 合 計		4,054,293	4,110,000

金品寄付者に対して感謝状贈呈

神社庁長

◆東山梨支部

諏訪神社 渡辺松雄、三枝

實、武井史朗、武井輝幸、長

沢英男、窪田政利、太田隆一、

石田 茂、掛本 稔

伏木神社 功刀弘雄、駒田

修、駒田紀之、辻 紀男、内

田定男、三枝勝利

◆東八代支部

大宮神社 株式会社 佐野緑

化土木 佐野治一

◆峡中支部

八幡神社 中川喜夏

笠屋神社 藤巻和子、高石石

材店、川崎石材工業、青沼久

雄、依田武三、小笠原区、

桜本眞由美

若宮八幡社 加藤 藤雄

浅間神社 河村 幹彦

若宮社 藤巻 和子

◆峡北支部

当麻戸神社 作地敏久、穂坂

敏

諏訪神社 早川睦彦

六社神社 藤橋二郎、浅川孝

彦、中島寛一

諏訪神社 清水 誠、清水文

明



◆南都留支部
北口本宮富士浅間神社 堀内
黎子、堀内寛子
富士御室浅間神社 在原慶
夫、在原千多夫、小佐野建、
倉澤鶴義、富士屋ホテル株式
会社 富士ビューホテル、小
佐野基政
浅間神社 中村進美、二の一
組、二の二組
八王子神社 八九会、子丑会
◆北都留支部
鶴川神社 伊藤一恵
惣祖神社 水越貞雄

遷御の儀（内宮）

東北支部

支部長 森 越 義 建

新しい御敷地に御造営された

内宮御正殿の新宮は周囲の緑の美しさに感嘆するほど照り輝いていた。二十年毎に社殿を建て替え、神宝や装束を新調して御神体を遷す、第六十二回神宮式年遷宮の最大の重儀である皇大神宮遷御の儀が、十月二日の午後八時、浄闇の中で斎行され、全国から三千人余の人々が参列参拝した。ちなみに、本県は小佐野・佐々木両副庁長以下十五名余が参列参拝した。

当日は外宮の参拝後、参列奉拝の受付をすませて指定の席に入り開始の時刻をまつた。

午後六時、風もなく静まり返った内宮神域に開始、参進を告げる報討が打ち鳴らされ、参道の電燈が徐徐に消え、清らかで穢のない浄闇と呼ばれる暗闇に神域が包まれた。やがてその中を松明の明かりに照されて、旧正宮へ向う勅使一行、つづき神宮祭主、大宮司、少宮司、神職等百数十人が、浄闇の中の参道を進み齋庭に入れた。愈々「遷

御」の重儀のはじまりである。

午後八時、天の岩戸の故事にならいたと伝う、鶏鳴所役のカケコーの三度の声が、かすかではあるが闇をついて聞えた。

正宮の御扉が開けられると、神域の木々のざわめく、御神体を遷す神職の列が動き始めた。

暗闇の中を松明の明かりに照されて、神宝や装束を捧げ持つ神職先頭に、楽師等の奏する雅やかな道楽の流れる中を、白い絹垣に囲まれ神職等に護られた御神体がお渡りになり、ゆるやかな足取りで新宮へ遷り行き、入御されお鎮りになられた。

渡御の間ざわめいておった神域の木々の振も、入御と共に静まり返っていた。目には見えずふれることもできないけれど、神の尊き神威と強き気を感じた。



遷御の儀（外宮）

東八代支部

支部長 志 村 重 治

第六十二回神宮式年遷宮最大の重儀である、遷御の儀が十月二日の内宮に続き、五日に下宮の豊受大神宮で斎行された。

山梨県神社庁からは神宮より招待された根津庁長他、十一名が全国神社、政財界関係者約二千名と共に特別奉拝者として参列した。当日、心配された雨も上がり、午後八時、特別奉拝者等が列席するご正殿前の明かりが一斉に消された。遷御の時を迎える。神職が天の岩戸の故事にちなみ「カケコー」と長鳴鳥の鳴き声を発する。天皇陛下の勅使が「出御」と合図し、ご正殿から絹垣で囲まれたご神体が出御、ご神体を中心に皇族代表の秋篠宮様ご参列のもと、元皇族の黒田清子神宮臨時祭主、鷹司尚武大宮司、ご神宝を手にした神職ら、百数十人が列をなした西の御敷地、新正殿へ、松明と、提灯の明かりをたよりに約三百メートルを行幸、役二十分程で新正殿内に入御された。

八年がかりで準備されて来た、

今遷宮も内宮、外宮の遷御の重儀を終え、これからは両宮の内外にある別宮の祭儀へと移って行く。

午後八時四十分、儀式の参列を解かれ、宿泊ホテルへと向かう。道すがら、日本国の君民一体となり守り伝えて来た、遷宮。神宮に改めて国民の一人として感動し誇りを感じた。そして、これから更に神明奉仕に努め次期遷宮に向けての奉賛活動等にも力を尽くして行きたいと決意し一路ホテルへと足を早めた。



お白石持行事に参加して

峡南支部総代

会長 笠井義仁

第六十二回神宮式年遷宮に向けた諸行事の一つであるお白石持行事に参加することが出来たことを大変幸せに思っております。

二十一年に一度の神宮式年遷宮は、平成十七年五月の山口祭に始まり遷御にまつわる諸祭行事の中でも、もともとは旧神領民（伊勢市民）が奉献する一大行事に、一日神領民として、御木曳行事に続いて二つめとなるお白石持行事に参加できたことは私自身の人生にとってもこの上ない幸運であると思っています。

本年秋にいよいよ遷御の儀を迎えるのに先立ち、ご正宮の宮域内に敷き詰めるのが「お白石持行事」ですが、この度の御遷宮に際して特別神領民として御奉仕することが出来たわけです。平たく申し上げて、私は何より新築なったご正宮を真近に見ることが出来ることに胸をときめかせておりました。

八月九日早朝、峡中、峡南の皆さんと一緒に楽しい二日間

のバスの旅が始まりました。大きな期待に胸ふくらませ、楽しく語らううちにバスは、新

東名高速道路から名古屋湾岸道路を経て伊勢に入りました。

明日の内宮での本番に向け、一日目は、外宮を参拝することでした。二十年の風雨にさらされた旧外宮ご正殿とは対照的に隣りには、新築なったご正殿が光輝いていました。過去何度かお参りしたここでの参拝もこれが最後かと思うと、しみじみした気持ちになると同時に隣りの新ご正殿に明日への期待がふくらみました。

そして当日、白装束に身を固め宿を出ました。お陰横町通りにはすでに多勢の人が集まり、その熱気に圧倒されました。

奉献車を曳いて神宮まで行き、お白石を頂いて新ご正殿に入りました。この感動は一生忘れません。



武田神社
権禰宜 滝口純一

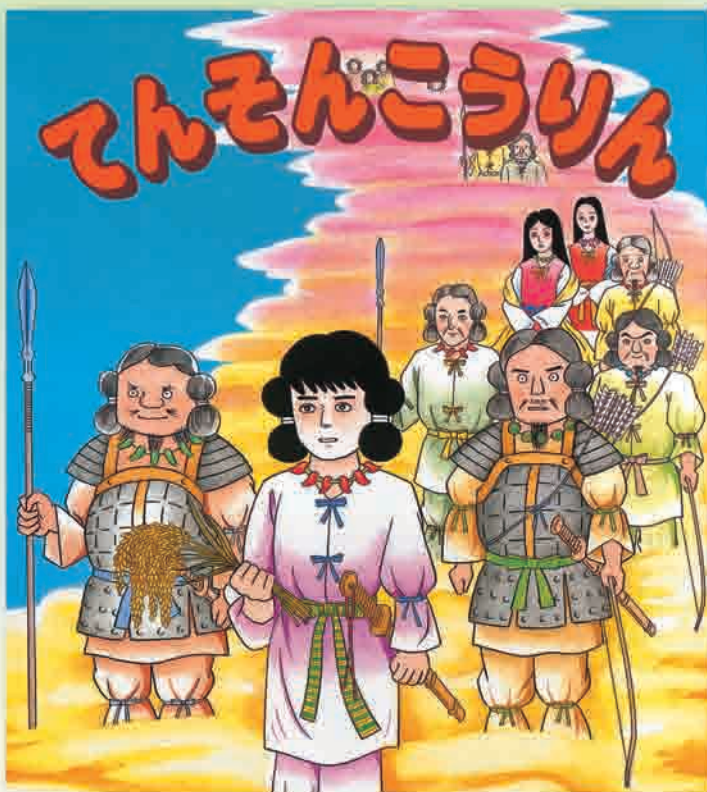
去る八月十七日から一泊二日にて、山梨県神社庁甲府支部主催による神宮式年遷宮お白石持ち行事に、山梨県神社庁庁長、甲府支部長他総勢約百二十名の参加がありました。お白石持ち行事は、お木曳き行事と共に旧神領民が神宮への報恩感謝として奉仕した五十年の歴史があり、現在も民俗行事として受け継がれて来ました。今回初めてお白石持ち行事に奉仕する機会を得たことは、一生忘れる事の出来ない体験となりました。初日は早朝バスにて甲府を出発し、途中に昼食を挟み、炎天下の中での外宮御垣内参拝、二見玉置神社における、お白石持ち行事奉仕者への裃き神事である浜参宮を受けてからホテルに到着しました。当日は、早朝より奉仕者全員が特別神領民用の白い法被を身につけてバスに分乗し、ホテルを出発、予定より早く外宮近くの受付場所に到着しましたが、会場には既に全国から集合した奉仕団がひきしめ合

本に挟まった二千人近い奉仕者全員に綱が渡り、お白石を載せた奉曳車を地元奉仕会の木遣りの素晴らしい歓声に後押しされながら、「エンヤ、エンヤ」の掛け声と共に約四十分かけて外宮神域まで力の限り奉曳きしました。外宮に到着後、奉仕者は手水の後に、お白石を包む正方形の白布と大きくても大人のこぶし位のお白石を奉仕者全員が受け取り、御祓いを受けてから参道を御正殿に向かう途中で、何故か持つてるお白石に御霊がやどり、そのお白石を通して日本人一人一人が神宮を崇拝しお守りしなければならぬのでわないかという気持ちになりました。そして檜の香る御正殿の近くにお白石を奉献しました。

奉献後は、おもてなし広場にて疲れを癒して解団式の後、内宮での御内垣参拝、おかげ横町での昼食を済ませて、帰路につき、甲府に到着したのは夜も九時をまわっていました。この度のご奉仕を通して、日本人の心のふるさとである神宮。その神宮の式年遷宮が六十二回も渡り伝統や歴史が受け継がれていることに対して大変感動するとともに、神職として日々の奉仕に対する使命感を感じました。

まんが古事記

てんそんこうりん (第二話)



お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。



「全国神社保育団体連合会」提供
問い合わせ 東京都渋谷区代々木

電話 〇三—三三七九—八〇一—

一冊 一一〇円

神社本庁内

あらすじ

葦原中国は、

おおくにぬしのかみ
大 国 主 神 が 国 造
 くにつく

りをされていま

したが、天照大

御神さまは、こ

の国をもつと豊

かで 平和な国
こさし ようと、

いさねにぎのみこと
瓊瓊杵尊を天降
あまくだ

らせることにし

ました。

そこで建御雷たけみかづちの

神を使いとして

葦原中国に赴か
おおくにぬしのかみ

せ、
あまつかみ
みこ
あま
大国主神に

天神の御子を天

降らす旨を伝え

ました
おおくにぬしのかみ
大國主申こは

事代主神、建御

名方神といふ息

子がいましたが、

この二人の息子

が納得するなら

ば、
国をたてま

つるというので

した。







(二六四号 第三話へ続く)

神宮大麻暦頒布始祭並秋季推進会議開催

穴切大神社 宮司 秋 山 忠 也

平成二十五年度の神宮大麻暦頒布始祭が去る九月六日に内宮神楽殿で斎行された。祭典内撤饌ののち鷹司大宮司から北白川統理に神宮大麻暦が授けられた。

祭員退下後に同じく神楽殿にて北白川統理、田中総長が各都道府県神社庁長に夫々神宮大麻暦を頒ち、御神樂が奉奏された。

終了後、会場を神宮会館大講堂に移し平成二十五年度神宮大麻暦頒布表彰式並秋季推進会議が開催された。

本県からは根津庁長、小山甲府支部長、飯田参事、私の四名が出席した。今回、図らずも特別表彰頒布優良奉仕者として表彰を戴くこととなり頒布始祭参列、推進会議出席と相成った。

会議では平成十七年度より推進された一千万家庭神宮大麻奉斎運動「モデル支部制度」が全三期七年間に亘る施策の総括を経て終了となり、次年度の頒布向上対策として施策の趣旨を広く周知推奨されたと呼びかけた。

次に頒布事例報告が行われ社会状況と現実の問題、頒布奉仕者の問題等が示された。その中で都市部の特色として、団地やマンションの増加する地域の住

民は核家族で人口移動が著しく地元意識が低い、神宮大麻だけでなく氏神神符の奉斎も危い状況である。又神職自身が関心が薄く資質の向上が必要と感じられる。又大災害時における家庭祭祀の継承も大きな課題となつたと報告された。

これからの頒布向上については頒布奉仕者の意識改革と地道な活動、努力が神社の基礎体力、底力となる。氏神信仰を充分に結びつけ神宮大麻と氏神神符のセットでの頒布活動を展開することが良策であると結んだ。

今日、大麻頒布を含め神社界全体の状況は大変厳しいものであるが、先人達が神宮尊崇の念のもとに、神宮大麻頒布をはじめとする神社活動の基盤確立に努め日本の真の発展のために力を注いできたその精神を受け継ぎ神宮への崇敬の真心を育み、氏神神社に対する意識の涵養に努めなければならぬと結んだ。この度第六十二回式年遷宮の遷御の儀が斎行される記念すべき年に受けた榮譽を深く心に刻み改めて頒布奉仕者たる神職の使命を自覚した会議であつた。

全国神社総代会愛媛大会報告

山梨県神社総代会 理事 奈良 俊 一

今年の第四十九回全国神社総代会大会は愛媛県県民文化会館に於て、平成二十五年九月十日（火）に開催された。全国から約千六百名が参加し、本県から五十名が早朝に出発し参加した。午後一時式典に先立ち清興では、樹齢九百年の大楠による日本一の樹根太鼓「津島平安太鼓集団・雅」による深く暖かい音色と壮大な響きに浸った。

続く大会記念講演では金美齡先生の実体験から生まれた確かな主張・演題「日本再生」の内容に感銘を受けた。

式典は愛媛県総代会長の開会の辞で始まり神宮遥拝・国歌斉唱・敬神生活の綱領唱和後、会長式辞（荒巻副会長代読）に続いて六十八名に神社功労者表彰が授与され、本県から玉諸神社役員中込豊秋氏と北口本宮富士浅間神社役員佐々木三郎氏が表彰の栄に浴した。

続いて来賓祝辞を北白川道久神社本庁総理（田中総長代読）、鷹司神宮大宮司、長曽我部神道政治連盟会長、愛媛県知事（上

甲副知事代読）、松山市長、有村治子参議院議員らが祝辞を述べた。長曽我部会長・有村治子議員より先の参議院議員選挙の協力に對しお礼があつた。

続く受彰者の代表者・愛媛県三島神社役員曾根貞義氏より謝辞があつた。

平成二十五年度事業計画が全国総代会事務局長から報告された。引き続き大会宣言が全国総代会理事より宣言され満場一致で採択された。

続いて次期大会開催地岐阜県岡本総代会会長より歓迎の挨拶があつた。引き続き聖寿万歳奉唱後、全国総代会副会長より閉会の辞があり午後四時十分散会した。ホテルに到着後温泉で疲れを癒し、翌日帰路についた。



緑陰子供会

猛暑真っ只中の七月下旬、甲府盆地中心に鎮座する穴切大神社において緑陰子供会が開催された。まず、地域の子供達と神社関係者は秋山宮司の御祓いを受け、根津庁長、古屋教化委員長の挨拶を受け、鎮守の杜でのお遊びをスタートした。午前は、青年会による昔ながらのお遊びの数々、紙芝居を経て、昼食には美味しくカレーライスを戴いた。午後は、火切実演の後、雅楽会による最古のオーケストラを堪能し夏の暑い一日を終了した。子供達の思い出の一頁になれば幸いである。



舞鶴小学校 五年

野口花乃

この前は、ありがとうございました。とちゅうで帰ることになったけど、あんどん作りやかみしばいや、大縄飛びが楽しかったし、カレーとスイカがおいしかったです。はじめてあんどんを作ってすごく楽しかったです。とてもわかりやすく作り方をおしえていただきありがとうございました。大縄飛びは、ひさしほりにしたのでひっから

舞鶴小学校 四年

加藤 万結姫

私はスポ少のみんなと参加しました。神社でどんなことをするんだろう?とどきどきしました。始めに、拜でんという所にみんなが入っておはらいをしてもらいました。おほらいは七五三の時にしてもらったことがありますが、音がおなかにまでひびいてびっくりしました。外に出て、お兄さんたちと、あんだがたどこさや、カメ、ウサギ、と三回勝てば人間になれるジャ

ないか心配でした。でもあまりひっからなくてよかったです。来年も行きたいです。楽しかったです。ありがとうございました。



ンケンや、仲間集めゲームなどをしました。ゲームをした時は暑かったけど、とても面白かったです。

その後で、あんどんをみんなで作りました。私は、色をぬるのがおそくて、なかなか出来ませんでしたが、大きなあんどんが出来てうれしかったです。ろうそくに火を点けて、みんなならんで歩いたら楽しいなと思いました。

お昼は、カレーを食べました。いつもは、大人しい友だちも、食べながらたくさんお話でき

て、楽しかったです。

最後に、神様の紙しばいを見ました。国生み物語と、山幸彦と海幸彦の話でした。ヤマタノオロチや、天岩戸の話は少し知っていました。神様は、昔は本当にいたのかな?と思いました。

私はよく、神社で遊んでいますが、知らない事ばかりで、とても勉強になりました。今度から神社で遊ぶ時は、おいのりをしてから遊びたいと思います。



神社庁関係団体報告

甲府刑務所秋季慰霊祭斎行

山梨県神職保護司会

事務局長 石 原 鎮

去る九月七日甲府刑務所にて
秋季慰霊祭が斎行された。

これは春秋の年二回、県内八
宗派の宗教団体が持ち回りで、
収容者・非収容者とその家族四
百七十余柱の物故者を慰霊する
ものである。

今回は山梨県神職保護司会が
神道雅楽会の協力を得、祭典奉
仕することとなった。

当日は、刑務所内にある講堂
の舞台上で、神道形式の祭場を
設え、佐々木高仁副会長（教誨
師）の斎主のもと、一九二名の
収容者の前で厳肅なうちに慰霊
祭は斎行された。

式では渡辺千紗さん（朝気熊
野神社禰宜）による浦安の舞も
舞われ、御霊をお慰めした。

刑務所での祭典は物故者の慰
霊と共に、収容者の矯正の目的
もある。何かしらの理由で法を
犯し、社会から食み出し、所内

で不自由な生活を送る人々。そ
の心は満足することなく、荒び
枯れ込んでいくことだろう。そ
の彼らの気持を和げ、正しい道
を示すためにも、厳肅で静寂な
祭典の中に身を置くことは、意
義のあるものである。

祭典終了後、望月久男名誉会
長が収容者の前で講話した。本
年行われる御遷宮と先日参加し
たお白石持行事の経験を基に、
神宮の歴史、日本文化の持つ奥
深さを話された。祭典に参加し
た収容者が、講話の言葉や厳肅
な祭典、典雅な雅楽の調べ、優
雅な舞に何を感じ取ってくれた
だろうか。

一人一人が本日の祭典に心を
傾け、一時でも荒んだ心が和み、
矯正されることを祈りたい。

雅楽を通じ

国民文化祭に参加して

山梨県神道雅楽会

理事 松 田 公 仁

国民文化祭とは昭和六十一年
より文化庁と東京都の共催で第

一回大会が始まりで、国内最大
級の文化の祭典であり、国民全
体に文化活動への参加を促す
「文化の国体」と言われていま
す。今回山梨県では「文化の風
とあそぶ」をテーマとし、県内
外の方々に文化を通じ山梨の魅
力に触れて戴く為に、他県では
十日余りのところ初の通年行事
として平成二十五年一月十二日
から十一月十日までの三百三日
間開催しています。

この国文祭で行った雅楽とは
古代の日本固有の歌と舞、及び
古代大陸諸国の器楽と舞に基づ
き、ほぼ十世紀（平安時代中期）
に完成した日本の最も古い音楽
で、世界最古のオーケストラ
（管弦楽）と言われています。

山梨県神道雅楽会では一月十
六日オーブニングセレモニー中
に甲府駅北口の特設会場、九月
十八日フットパスの一環として
穴切大神社、九月二十三日の山
梨県立美術館では「日本のわざ
と美」特別展記念コンサートを
行いました。我が雅楽会では演
奏だけではなく、一般の方々の
為に曲や楽器の説明、雅楽から
生まれた言葉（打ち合わせ・音

頭など）の解説など曲の合間に
しています。一月に行った頃には
入出が少なく関心が少ないと
思いましたが、美術館コンサー
トでは満員近く大勢の方々が集
まり、徐々に雅楽が広まってい
くように感じました。

雅楽は神社に於いても祭典楽
等として御神徳の高揚や教化に
重要なものであります。我々も
日本の伝統文化の継承また普及
の目的の一員となればと思い、
なお雅楽を続けて行く思いに駆
られました。



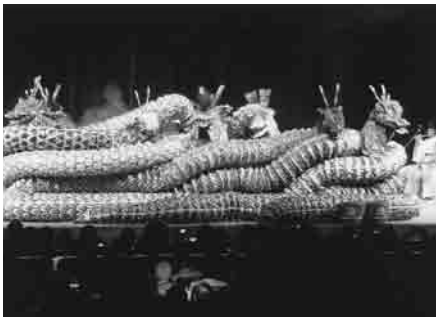
全国敬神婦人大会 出雲大会に参加して

山梨県敬神婦人連合会

会長 乙 黒 夏 恵

去る九月三日、第六十四回全国大会に参加致しました。県下では武田・稲積・住吉・浅間・逸見の各神社合わせ二十三名の参加者がありました。

大会会場は松江城南の島根県民会館で、全国より千六百名余の参加者があり、式典に先立ち清興として行われた社会福祉法人いわみ福祉会芸能クラブ二十名による石見神楽『八岐大蛇』は、生業とする本格的神楽集団と見ま ぐうばかりにて、息の



合った演技には、時間を超越し神話時代に居合わせた感のある出し物で会場の割れんばかりの拍手にその素晴らしさを良く表わしておりました。

式典では、創立六十五周年記念表彰が行われ、当県から被表彰者として二名が個人表彰の荣誉に預りました。

第三部の議事では役員改選の報告がされ、最後に「敬神婦人として国の若返りと永遠の発展を祈念し、国の大切な伝統と文化を守るべく力を尽くす」との開会宣言が承認され閉会。次回は鹿児島で開催されます。前線の通過、台風の接近に伴

.....

第十三回神社関係者囲碁大会報告

山梨県教育関係神職協議会

事務局長 小佐野 文 男

十三回目を迎える神社関係者囲碁大会は、山梨県神社庁主催、教育関係神職協議会（会長 興石 仁）が主管し神社庁二階神殿において開催された。今回の大会は会場の都合で、開催がお盆の期間中となり保護者と一緒に帰省する青

い荒天のもとでの旅となりましたが、特に翌日の出雲大社では、全国各地からの婦人会の方々が大家挙して参集する中、私どもは、正式参拝のち、千家尊祐宮司より他県神社の方々が同席の中にも拘わらず「上京の際、必ず富士山の見える窓側を予約し、山梨の方々にはより親しみをもつ」旨のお言葉を頂戴し、あわせ去る五月に行なわれた六十年に一度の遷座祭当日の体験談をお聞かせ頂き、廻廊より降り頻る雨の中、麗しく葺き上がったご本殿の大屋根を見上げつつ暫し千古の歴史に思いを馳せました。

.....

少年が多く、一般の部ともに参加者の減少が見られた。

大会には幼稚園・保育所の子供たちと小学生合わせて二十二名、県内八支部より囲碁を愛好する氏子崇敬者Aクラス・Bクラス合計十二チームの参加があり、八月十六日（金）、午前九時より開会式が行われた。主催者として根津泰昇新神社庁長から「この、神社関係者囲碁大会は囲碁の腕前を競うことも大切だが、県下の神社関係者

が集う貴重な機会でもあるので、氏子同士の親睦をも深めていって欲しい」との挨拶を頂いた。続いて興石会長が「毎年、山梨日々新聞社より、賞状と大型の楯の提供後援を頂いている事」の紹介と感謝の意を述べた。

続いて前年度優勝者からトロフィーの返還、記念の楯の授与と続き、北斗会囲碁教室の青沼貴夫審判長から対局上の注意。最後に囲碁担当・高野英夫副会長より運営上の注意があり、開会式を閉じた。青少年の部：幼児・小学生は個人戦とし、有段者・上級者・初心者に部分かれ9時半から始まった。一般の部は三人一組編成のチームを組み、Aクラス六チームとBクラス六チームに分かれ、神社対抗団体戦として競い合った。

閉会式では、青沼審判長より、「この囲碁大会は青少年の育成に重きを置いているので、大勢の子どもが入賞の喜びを享受できるように配慮をしている。この神社庁の大会はその趣旨を十分理解して大会運営がなされているので、技量向上にも繋がっている。そのことを大いに感謝している」との講評があり午後四時に終了した。

神社スカウト(日本ジャンボリー)報告

ボーイスカウト第十団

リーダー 乙 黒 洋

ボーイスカウト運動。それは今から約百年前、英国の退役将軍ロバート・ベーデン・パウエル卿が野外教育を通じて、少年達に自立心や、協調性、リーダーシップを身につけさせようとして始まった。現在世界百六十の国と地域、約三千万人が加盟する世界最大の青少年運動である。

日本でも明治四十一年に、ボーイスカウト運動が伝わり、全国道府県に連盟が置かれ、全国約二千六百の団、約十万人のスカウト、約六万名の指導者が活動している。

そして、日本における最大のスカウト行事、四年に一度の「日本ジャンボリー」が、七月三十一日より八月八日までの九日間に亘り、山口市きらら浜で開催され、全国より約一万五千名が集い、本県からも奉仕員として指導者十三名が大会の運営に従事し、参加隊として指導者、スカウト合わせ四十三名が野営生活を行い、提供される様々なプログラムに参加した。第十六回目となる今回は、第三十回ア

ジア太平洋地域スカウトジャンボリーでもあり、更には平成二十七年に同所で開催される第二十三回世界ジャンボリーのプレ大会としても位置づけられ、海外より派遣されたスカウトが多く見られた。

さて、スカウト運動においては、スカウトそれぞれが明確な信仰を持つことが重要とされ、「スカウトの【ちかい】」の第一条には、「神(仏)」と国とに誠を尽くし、おきてを守ります。」と記されている。その実践を目的としたプログラムの一つとして、本ジャンボリー五日目の八月四日午前八時半より、各宗教宗派による宗教儀礼が行われ、神社神道による儀礼は、神社本庁主催・全国神社スカウト協議会(神S協)主管のもと、開催奉告祭が、地元の氏神様である北方八幡宮 藤井康信宮司を斎主として斎行され、祝詞奏上の後、小串和夫神社本庁副総長、寺井種治神S協会会長、真庭宗雄山口県神社庁副庁長、そして本県より参加の甲府第二団 小林飛翔スカウトが玉串を奉り拝礼した。

尚、期間中には各宗教宗派の宗教ブースが置かれ、神道ブースでは神棚を設け参拝作法などの指導や、第六十二回神宮式年

遷宮の説明などを行い、更なる信仰の奨励、教化活動が行われ、約四百五十名のスカウトが訪れた。

女子神職会活動報告

山梨県女子神職会

会長 津 金 八千代

平成二十五年度山梨県女子神職総会が、七月二十四日に行われました。前年度の会計、事業、監査報告に加え、新役員承認、本年度予算案、事業計画が審議可決されました。当女子神職会は、神社庁主催の行事参加を主体とし、女子神職会としての活動を周知して頂くべく、少人数ながらも積極的に行動していく



事を提案致しました。総会の終了後、根津泰昇山梨県神社庁長にお話させて頂き、役員会に於てご審議下さり、ご承認頂きました。感謝申し上げます。

前後致しますが、七月四日二十日神道政治連盟山梨県本部の要請を受け、公報活動に参加致しました。

また、九月七日山梨県神職保護司会による甲府刑務所慰霊祭では、佐々木高仁山梨県神社副庁長ご斎主の元、渡邊千紗女子神職会員が浦安の舞を奉納させて頂きました。重ねて、十月二十八日、コラニー文化ホールで開催されます山梨県神社関係者大会での神宮大麻頒布始祭には、浦安の舞(二人舞)の奉納をさせて頂く予定でございます。それに向けて、九月十三、十九日の両日、酒折宮権祢宜飯田淳美講師のご指導で浦安の舞の研修を行いました。

また、九月二十五日には、山梨県神社祭式講師桃井一祝先生に、祭式衣紋研修を受けました。装束の布の様々、正装の着装を学びました。昨今男子神職の方々と祭祀を斎行させて頂く折、着装のお手伝いをさせて頂きたいという思いから、男子神職正装の正しい着け方もご指導頂きました。

『型』それは神様への敬意、限り無い感謝の表れです。『型』を正確に伝承して行く事が「神社界の務め」だと感じております。精神を研ぎ澄まし自らの姿勢を正し、日々心を磨いて参ります事が、神社界の発展、質の向上に繋がる事と信じて更に研鑽を積んで参ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

神道青年会活動報告

山梨県神道青年会

会長 藤原 永 起

山梨県神道青年会は本年度、代々の継続事業に加え新たな試みとして雅楽研修会を開催することとなりました。これは今までの一日研修と異なり、研修終了後には祭典伶人奉仕が出来る研修を目的とし、山梨県神道雅楽会の皆様に御指導御協力を頂き開催することとなりました。年間を通して数回の雅楽研修をすることにより効率的且つ実践的な研修となっており、今月よりの開講となりました。

また、七月二日・三日に宮城県金華山黄金山神社へ五名、九月二六日・二七日には福島県南相馬市男山八幡神社へ六名にて東日本大震災の復興支援活動に



行つて参りました。金華山は本年巳年大祭の御縁年であり、当会と致しましても幾度となく支援させて頂き、神青協でも積極的な活動を展開しており同志と共に微力ながら継続して復興支援活動をしております。福島県南相馬市は最近まで原発二〇キロ圏内避難区域の指定がされており、震災以降全く手付かずの状態でした。福島県、栃木県、茨城県と合同にて境内を草刈清掃整備し、また現地の深刻な問題を伺いながら福島第一原発六キロ圏内まで行き状況視察をして参りました。思いは一つでした。自分達の幼少期の思い出、氏神様のお祭に参加したり川や

山で遊んだそんな楽しい思い出を未来の子供達にも残してあげたい、その一心でした。我々もそのことに少しでも協力できるような活動に励んで参ります。九月十八日には多摩武蔵野御陵に勤労奉仕に行つて参りました。

祭典を斎行して

福地八幡神社

責任役員 奈良 俊 一

去る九月七日佐々木幸永宮司様が本務奉仕する大月市富浜町鳥沢鎮座の福地八幡神社の例大祭が斎行されました。

午前九時拝殿には氏子総代会長はじめ全員着座、来賓は衆議院議員・市議・諸団体代表・兼務神社役員に参列を賜り式が斎行されました。

式典後、午前十時より午後七時まで法被姿の担ぎ手が宮神輿を担ぎ、お囃子・巫女さんの先導で町内を練り歩きました。

各地区の子供神輿も練り出し、沿道に詰めかけた多くの皆様が熱気あふれる祭りを楽しみました。

た。一般国民が皇室に対して御協力できる数少ない機会ですので謹んで清掃奉仕して参りました。これよりも多岐に亘り事業を展開し、斯界の先兵として積極的に活動して参りますので御理解御協力の程お願い申し上げます。

境内では、幼稚園児の鼓笛隊・お楽しみ抽選会・樽酒試験・カラオケ大会と歌謡ショー・露店・打上げ花火等多くの行事が繰り広げられました。

氏神様の祭りを通して、多くの方々に御神徳がありますようにご祈念申し上げます。



初任神職研修を受講して

山神社
禰宜

濱武尊

去る七月二十七日、二十八日及び八月三日、四日に第十七回初任神職研修会が開催され、県内より九名の受講者が集まりました。先づ、四日に亘り私共の為に時間を割いて戴いた関係者

の皆様に、厚く御礼申し上げます。

講義の内容は、当然ではありませんが基礎的な事柄が多くを占めており、それ故に大変勉強になりました。一方で、ハイペースな部分もあり、レポートで苦労するという一幕もありました。

研修中は基本的に班ごとに役割分担が決まっていました。が、担当ではなくとも、手の空いている者は積極的に手伝いを買って出る等、受講者九名、一丸となつて研修に臨む事ができました。その為、初めて顔を合わせた者を含め自然と親交が深まりました。研修開始時には独特の緊張感がありましたが、苦楽を共にする事で、研修終了時にはかけがえのない仲間になれたと思います。

富士山の世界文化遺産の登録、更には、二〇二〇年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定する等、明るく流れが来ているように感じます。今後、私共も自身の奉務精神



社だけでなく、様々な形でこれまで以上に日本に関わる事になると考えております。その際に、私共が一番忘れてはならない事が今回学ばせて戴いた、神職としての在り方だと思います。未
来の神社界、延いては惟神の国日本を背負っていく者の一人として、受講者八名の仲間を始め多くの方と、御教示戴いた事を胸に、日々研摩に励んで行きたいと思っております。

建岡神社 権禰宜

中澤 聡美

私は、普段は会社に勤務しており、お祭りがある時だけ奉仕させて頂いています。そのため、初心に返り一つでも多くのことを学んで帰りたいと思っておりました。研修会の中で新たに学ばせて頂いたことはたくさんありましたが、その中でも一番印象に残ったのは、敬神生活の綱領の講義です。「先人達が今の私達に何を期待し、何を意味して敬神生活の綱領を作ったのか」「氏子・崇敬者の方々にこれからどう接していけばいいのか」をととても考えさせられました。

た。今私達がこうして平和に生きていられるのも先祖の方々の苦勞があつたからこそだと思ひますので、今こうして生きていけるということに感謝し、「神職としてどんな知識・どんな人柄を得なければいけないのか」を常に考え、日本の素敵な文化・伝統を残していけるよう、行動していきたいと思ひます。

また、この四日間同期生と共に生活する中で、協調性をもつて周りに合わせて行動することの大切さを改めて感じました。私は神職の方々と接する機会が少ないので、神社の様々なお話を聞くことや相談することができたことは、とても貴重な経験になりました。そして、同期生と切磋琢磨し、協力し合い、支え合ったことで、大変充実した四日間を過ごすことができました。

最後になりますが、講師の先生方、事務局の方々には、忙しい中ご指導頂き、大変ありがとうございました。今回の研修会で教えて頂いたことを胸に、明き清き直き正しきまことの心を以って祭祀に勤しみ、日々精進してまいります。

支 部 だ よ り

東山梨支部

東山梨支部で第六十二回

伊勢神宮式年遷宮記念講演

東山梨支部長

高 原 左 門

平成二十五年八月三十一日東山梨支部定期総会並びに神宮式年遷宮奉賛会の総会が山梨市民会館において開催され、根津山梨県神社庁長・中込山梨県総代会長のご臨席を賜るなか神職をはじめ総代各位の会場いっぱい出席のもと厳粛のうちに総会は無事に進行されました。

第二部として式年遷宮を記念して講演が行われ、能楽の源流「神への奉納」と題して、講師観世流能楽師佐久間二郎先生の講演をいただき会場は水を打ったような静けさの中で、同講演に聞き入った。

先生は山梨県出身で、山梨県からは武田信玄公以来三人目の能楽師で貴重な存在で、昭和四十七年甲府市に生まれ幼少の頃より能楽に興味をもたれ能楽師



を志して、現在は能楽入門講座「花のみちしるべ」を開講し地元、山梨にて能楽の普及活動につとめるほか多方面で活躍が展開されております。

平素は能楽に楽しむ機会も少なく理解も薄かったけれども講演を戴くなかで、能楽の所作や仕組みを理解できたり、知識を深める事が出来て、神社界に身をおくものとしても大変有意義な講演であった。

講演の締めくくりに独演では有りましたけれども、羽衣の舞を舞われ、その声量と身のこな

し・所作のすばらしさ・舞台の雰囲気一同感動を覚えながら総会を終了しました。

東八代支部

伝え合おう、

日本の心運動への取り組み

東八代支部長

志 村 重 治

今年は第六十二回式年遷宮の年であり、この節目の年に特別な事業に取り組めたらと考え、首題の運動展開案を 五月開催の支部定期総会に提案したところ、満場一致の賛成により実施を決定しました。

その内容は

一、祝祭日には国旗を揚げ、世界の平和を祈り、国家の隆昌を祝い合います。

二、年末年始には神宮大麻と氏神様のお札を受け、家の繁栄を祈り合います。

三、元旦祭、拝賀式には『二月一日』の歌を合唱し、国家、郷土の新年を祝い合います。

の『三合おう』運動です。

運動の日程につきましては、十一月九日に、支部の神宮大麻、

暦頒布始祭を管内神職、氏子総代全員参集のもと斎行し、その後会議の折りに、この運動展開の周知と取り組みの意識統一を図ります。

運動期間は、十一月十日から十二月三十一日までとし、支部内一斉に運動を展開します。又、各運動への取り組み内容は

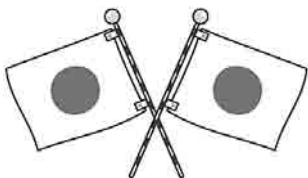
一、国旗の掲揚は、管内神社はじめ、神職、氏子総代全員が先づ模範を示し、近隣各戸にも働きかける。

二、神宮大麻等増体は、各神社毎に全戸訪問を徹底する。

三、一月一日の歌合唱は、元旦祭、拝賀式に各神社総代長が指揮を取り合唱する。

というものです。

よい成果が挙げられる様、支部一丸となり取り組みます。



参議院議員選挙を終えて

神道政治連盟山梨県支部 幹事長 渡 邊 平 一 郎

平成二十五年七月二十八日の任期満了に伴い、第二十三回参議院議員通常選挙が、七月四日に公示され七月二十一日に投開票が実施されました。神政連の会員並びに関係者の皆様の御支援、御協力をいただきまして、神道政治連盟の推薦する比例区有村治子候補と地方区森屋宏候補が揃って当選することができました。あらためて皆様に御礼申し上げます。

さて、今回の参議院選挙を振り返ってみると、昨年末の衆議院選挙に続いて自民党が勝利しました。自民党から変わった前民主党政権では、何も決まらず、何もせず、只パフォーマンスだけの政治でした。民主党に期待した分その反動が大きかったのだと思います。昨年の衆議院選の大勝の後の今回の参議院選の結果により、衆参のねじれが解消し、我々の期待どおりの状態となりました。我々神道政治連盟の国会議員懇談会にも山梨県より自民党宮川典子、堀内詔子、中谷真一各代議士そして無所属の長崎幸太郎代議士にも入会していただきました。参院選後には、早速、本県出身の比例候補、

赤池誠章議員にも入会していただきました。今回の参議院選挙における比例候補として神政連では、有村治子氏一人を統一候補として推薦致しました。本県出身であり、神政連山梨県本部の顧問でもある赤池誠章氏も県本部として推薦したかったので、我が力の不足の為推薦することができませんでした。しかし結果として、有村議員の票は六年前より四百七十票ほど減りました。有村議員と赤池議員両氏が当選することができ、全国的にみても神政連国会議員懇談会における有力議員がかなり当選致しました。森屋議員にも入会をお願いしている所です。参議院選挙の公示の七月四日より、女子神職会、神道青年会、神政連関係者に神政連山梨県本部として毎日交替で出席して電話作戦、又事務所へのお手伝いをしていただきました。本県にありがとうございました。衆参のねじれが解消した今、安倍首相は是非我々の目指す国づくり、経済の発展など様々な課題を克服して誇りを持って子孫に残せる国づくりを期待したいと思っております。

「神殿新嘗祭」

初穂を供え、今年一年の収穫の感謝と喜びを神々に報告する「新嘗祭」。恒例による神事を下記により斎行致しますのでご参列下さい。

記

- 1、日 時 平成25年11月12日(火) 午後3時
- 2、場 所 山梨県神社庁神殿

「顧問・参与会」

神職身分二級以上の神職で構成されております神社庁顧問・参与会第21回例会を下記により開催致します。

記

- 1、日 時 平成25年12月10日(火) 午後3時
- 2、場 所 ホテル談露館

「新穀感謝祭」

我が国の御親神、心のふるさとと仰ぐ「お伊勢様」。本年は大御神にお遷りいただいたばかりの新宮での参拝という貴重な機会です。この尊い機会に、日本人としての「こころ」を振り返ってみませんか。

本年も多くの皆様のご参列を得て、奉賛の喜びを共に致したく存じます。

記

- 1、日 時 平成25年11月19日(火)～20日(水)
20日(水)～21日(木)
(一泊二日)
- 2、神宮では御垣内にて特別参拝、神楽殿での御神楽の奉奏が執り行われ、「干支の飾り皿」が参拝記念として撤下されます。
- 3、宿泊ホテル、二日目の行程、参加費は支部によって異なります、支部役員・神社宮司にお尋ね下さい。

「神宮初まいり」

毎年恒例となりました神宮初まいりの旅を下記の日程で行います。今回は参宮の後、九州国立博物館にて開催の「国宝 大神社展」に合わせ九州に参ります。

多数の皆様にご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

- 1、日 時 平成26年1月21日(火)～23日(木)
(二泊三日)
一日目…山梨各所→両宮御垣内特別参拝
小牧空港→福岡空港 博多泊
二日目…博多観光・太宰府天満宮正式参拝
「国宝 大神社展」拝観 別府温泉泊
三日目…別府観光
大分空港→羽田空港→山梨各所
- 2、参加費 決定次第、ご案内致します。

今後の予定

表紙写真説明

遷御の儀 次第 概略

皇大神宮 平成二十五年十月二日 午後八時
 豊受大神宮 平成二十五年十月五日 午後八時

※【一】内は豊受大神宮

一、参進

午後六時の大三鼓を合図に、奉仕の諸員が内宮齋館【外宮齋館】前庭より参進致します。参進の列は、先ず勅使の御列、次の神宮祭主・大宮司・少宮司以下百数十人に及ぶ奉仕員の列が続ぎ、松明の明かりに照らされて参道を進みます。

二、対揖 勅使修祓

第二鳥居に於いて勅使の御列と祭主・大宮司・少宮司以下の列とが参道の両側に相対して対揖、勅使の修祓の儀が行われます。

三、太玉串行事

玉櫛行事所に向かい、御垣内参入に先立って勅使、勅使随員、祭主、大宮司、少宮司、

四、勅使御祭文奏上

欄宜がそれぞれ両手に太玉串を執つて正宮御垣内に向かいます。そして諸員が中重の石壺に著版、まず太玉串を納める行事が行われます。

勅使及び祭主・大宮司・少宮司以下諸員が中重の版を起ち内院に参入し、勅使が御祭文を奏せられます。

五、御正殿開扉 召立

大宮司、少宮司によつて御正殿の御扉が開かれ、祭主以下が殿内に候し、正殿、神殿の殿内を整え、正殿前では奉仕の順番に名前を告げられ、次第によつて渡御の列次が整えられます。

六、鶏鳴 出御

所役の宮掌が瑞垣御門にて鶏鳴三声（皇大神宮はカケコー、カケコー、カケコー豊受大神宮はカケロー、カケロー、カケロー）を奉仕し正八時、勅使神前に進み謹みて出御を奏請せられます。

ここに神儀は静々と御正殿を出御あらせられ、絹垣の内に入らせられて御道敷の白布の上を新殿へとお渡りになります。

御列が進ませられるにしたがつて庭燎はすべて打ち消され、浄闇の中、楽長、楽師による道楽の調べの中、前陣後陣と威儀を正し厳かに新宮へと向かいます。

七、入御 閉扉

神儀静々と新殿に入御あらせられます。そして、前陣後陣の御装束神宝が次第に殿内に奉納せられ、全てが整い大宮司、少宮司が御扉を閉じ奉

八、勅使御祭文奏上

勅使が御祭文を奏せられます。

九、拝礼 退出

諸員中重に退き、奉拝八度拍手両端（八度拝）の拝礼を行つて御垣内を退出致します。

十、荒祭宮【多賀宮】遙拝 退下

勅使以下、祭主・大宮司・少宮司以下諸員、荒祭宮【多賀宮】を遙拝の上齋館に退下。遷御の儀が全て終了致します。

